

複合交流センターの外観イメージ（案）



◆外観デザインのコンセプト（理念）

1. 透明性・・施設内の活気ある市民の活動を駅前広場に伝える
2. 北国街道の格子のイメージ・・透明性を高める機能と、視線を遮る機能との融合
3. 照明エネルギーの低減・・開口部を多く設けることによる、自然光の取り込み
4. 風景への溶け込み・・小諸の青空を建物に映しこむことによる駅前景観への配慮
5. 存在感の低減・・駅前に対する圧迫感を、透明性を高めることにより低減
6. メンテナンス（維持管理）性、機能性をもったデザイン
開口位置の適切配置、施設利用者への雨よけひさし、施設管理（建物内の死角部分の低減）

新図書館について知りたい！

新図書館準備室だより

み・リン

No.4

「み・リン」とは「みんなとリンク」の略で、
みんながつながっていくという願いがこめられています

■第5回 建設ワークショップ

昨年11月25日に行われた第5回新図書館建設ワークショップは、「複合交流センターと周辺の景観を考よう！」を

テーマに開催されました。この日は、設計会社から交流センターの外観イメージ案について提案があり、それについて参加者による話し合いが行われました。



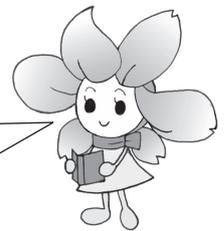
建物案の模型

●今回出された主な意見

- ・北国街道を現代風にした和風のイメージがとても良い。
- ・ガラスが多いと自然の光で館内が明るくなるので良い。
- ・ガラスが多いとメンテナンスが心配。
- ・結露や空調は大丈夫？日差しの強い日は室温が高くなるのでは？
 - ・・・空調については、夏は天窓から夜の冷気を取り込み、館内温度を下げるができます。
- ・天井が高いと冷暖房が上に逃げないの？
 - ・・・床下吹き出し空調（*）を検討しています。

（*床下の細かい吹き出し口からフロア全体の空気を押し上げて空調する方式。これにより室内温度を均一に調整することができます）
- ・素材は、木など本物の自然素材を使って欲しい。
 - ・・・建物の色、素材については、今後の実施設計で話し合っていきます。
- ・光を取り入れることと、本への紫外線対策のバランスをうまくとって欲しい。
 - ・・・ガラス面へのUVフィルムの装着や、本棚の向きなどについて検討していきます。
- ・外から中の灯りが見えるのは駅前が明るくなって良い。
 - ・・・駅・交流センターへの人の誘導や、防犯上の効果もあると考えられます。
- ・外から見ると落ち着かないのでは？
 - ・・・外から見えにくい閲覧コーナーなどの工夫も取り入れていきます。

いよいよ交流センターのイメージが膨らんできたワ！



第5回ワークショップ夜の部の開催前に、コラボレーシオン(協働)企画として、ゴスペルん♪こもろのミニコン



サートが行われました。これは、これまでに行われたワークショップ参加者とのつながり、で実現したものです。

図書館閉館後、市立小諸図書館の一般閲覧室がコンサート会場になりました。ゴスペルの皆さんも「図書館で行うコンサート」に合わせて、ゴスペルの歴史にちなんだ絵本の読み聞かせを間に取り交ぜ、「アメイジング・グレイス」「デイプ・リバー」など、9曲を披露してくれました。

コンサート終了後は、ゴスペルんの皆さんもワークショップに参加し、交流センターの活用と交流について意見を出していただきました。

『おは』トークキャラバン in 小諸市 開催

昨年12月5日、雑誌『おは』の編集人である岡崎勝氏の講演と、県図書館協会会長の牛山圭吾氏を交えたトークライブが開催され、小諸市内外から34名の参加がありました。

岡崎先生は現役の小学校教師であり、多くの子ども達と接する中でのエピソードを交えながら、子どもたちが個性の違いを受け入れて育つこと、大人が子どもの立場を尊重し「つきあう」という考え

方など熱く語ってくださいました。

した。その中で、「読書は遊び」という言葉にうなづく参加者が多く見られました。

読む喜び、知る楽しさを、多くの子どもたちと分かち合うことの大切さを伝えていただいた講演会となりました。



▼問い合わせ先
新図書館準備室
(内線367)

ミニコンサートで歌っていただいたゴスペルシンガーの尾崎久美子さんが、自身のブログで今回のワークショップを紹介してくださいました。(一部省略しました)

小諸に学ぶ

新しい図書館を建設するにあたって、ワークショップにも参加させていただいたのですが、これが素晴らしくて、素晴らしくて!

そもそもこのワークショップとは、行政が勝手に建てるのではなく、市民の皆さんの意見も取り入れながら、行政と、設計事務所と、市民の皆さんが、みんなで作っていくという、とても画期的な取り組みです。

もちろん、ここまでくるとは、いろんなご苦労があったと思うのですが、でも、こういうことをやっていることが素晴らしい! 行政に対して、ただ文句を言うのではなく、市が用意してくれたワークショップという場にちゃんと参加して、そこで意見を言い、行政の声もちゃんと聴く姿勢を持っている、市民の皆さんも素晴らしいと思う。そこは、設計のプロがちゃんと加わっていることも、素晴らしい。

ワークショップには、小中学生も参加していました。大人の意見だけでなく、子供の目線から見た意見も取り入れ、同時に、次の世代を育てていることも、本当に素晴らしいことだと思います。

できそうで、できないこと。でも、やっている人達がいること。

答えを急がないこと。時間をかけて、みんなで答えを見つけていくこと。1つ1つ向き合っていくことの大切さ、本当の意味でみんなで共存していくことの大切さ、そして、一人一人が責任を持つことの大切さも教えてくれました。

図書館レポート

視察を行った、各地の図書館の取り組みを紹介します。



富士見町図書館

富士見町図書館は、人口1人当たり貸し出し数が、ほぼ同規模の全国町村の公立図書館で12年連続1位だったことが、日本図書館協会から発表されています。

館内の閲覧スペースはゆったりとした空間がとても心地よく、滞在型の図書館として町民をはじめ、多くの皆さんが利用していました。

バランスのとれた蔵書や日々の選書もこの図書館にたくさんの人を集めている理由のひとつです。

駅に隣接している立地、横に広いフロアなど、計画中的小諸市複合交流センターと類似している部分も多く、とても参考になりました。

私たちがたくさんの皆さんに利用してもらうために、役に立つ図書館を目指していきたいと思います。